

港湾における中長期政策の検討について(案)

平成28年4月25日
港湾局

昭和60年 (1985年)	21世紀への港湾 ～成熟化社会に備えた新たな港湾整備施策～	<ol style="list-style-type: none">1. 総合的な港湾空間の創造<ul style="list-style-type: none">・ 物流、産業、生活に係る機能が調和良く導入された総合的な港湾空間の形成 (ウォーターフロント開発)2. 港湾相互のネットワーキングの推進<ul style="list-style-type: none">・ 中小港湾同士、中小港湾と大港湾が連携して貨物需要や港湾サービスを提供
平成 7年 (1995年)	大交流時代を支える港湾 ～世界に開かれ、活力を支える港づくりビジョン～	<ol style="list-style-type: none">1. 大交流を支える港湾ネットワークの形成<ul style="list-style-type: none">・ 港湾の機能分担を図り、施設拠点化など効率的な配置と投資の重点化 (中枢・中核港湾の配置構想)2. 活力を支え安心できる空間の創造<ul style="list-style-type: none">・ 臨海部の空間利用の再編

※1995年に策定された長期ビジョン以降、港湾における中長期ビジョンとしては策定されていない

➤ 国際コンテナ・バルク戦略港湾政策等の各港湾政策を推進

ICT技術の進展

・
生産性革命

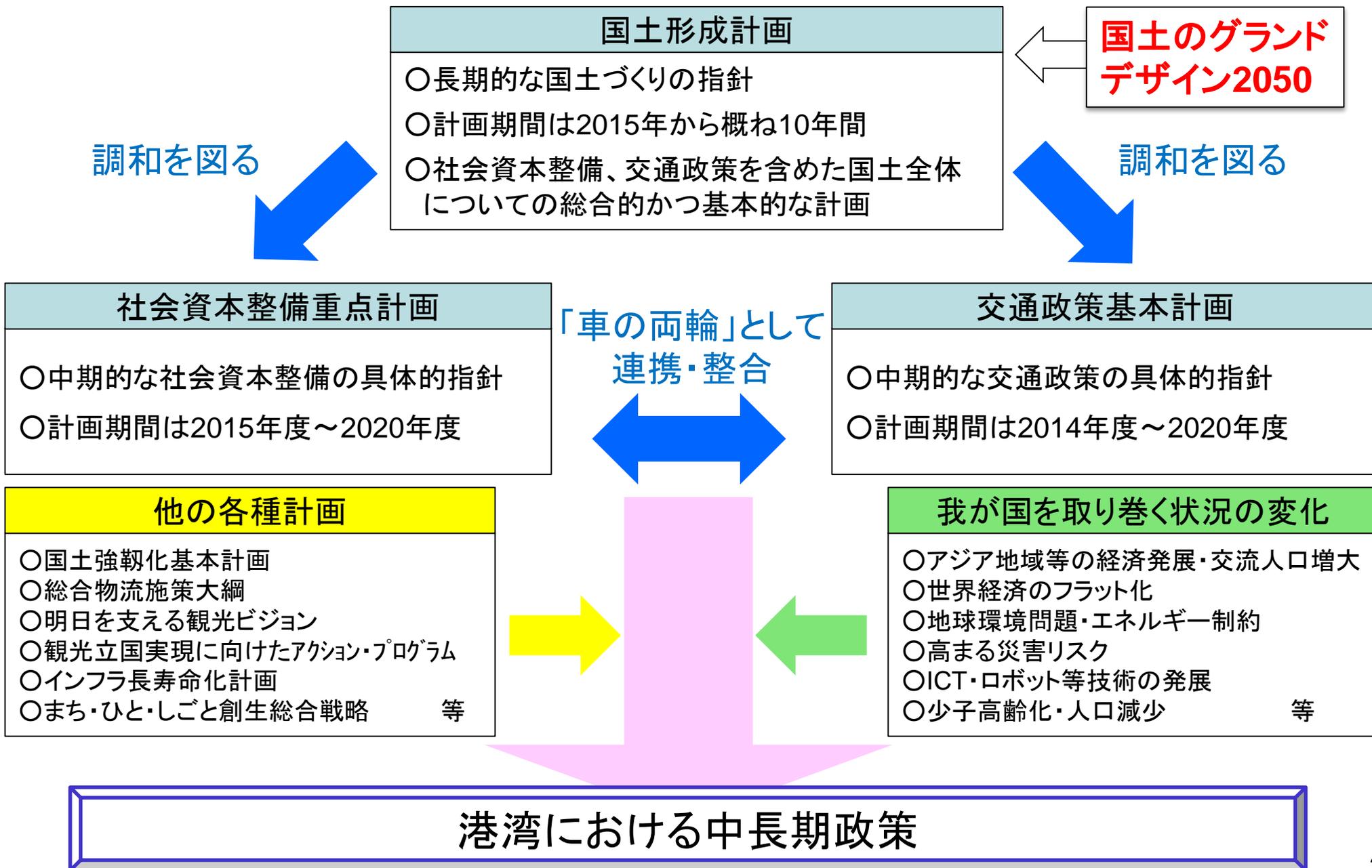
TPP等
フラット化する世界・
新輸出大国

少子高齢化

・
人口減少

等

港湾を取り巻く環境の変化に対応した中長期的なビジョンが必要



今後の進め方(案)

- H28年度は、港湾の中長期政策を検討する上での現状及び将来にわたる課題整理や論点整理を行い、その後、中間とりまとめに向けた審議を行う予定。
- 本分科会での審議を踏まえ、適宜、港湾政策にフィードバックすることを検討。
- H29年度は、H28年度の中間とりまとめを踏まえ、最終とりまとめに向けて議論を深化させる予定。
- 場合により、各港湾分科会の間においても意見聴取の場を設けることも別途検討。

当面の予定

H28年度：港湾の中長期政策検討における課題、論点を整理し、中間とりまとめを行う

H29年度

